

平成 30 年度 政務活動費支出整理簿

会派名 無所属

氏 名 吉田 淳一

項 目	調査研究費		
費 目	旅費		
整理番号	月 日	支出額 (円)	支 出 内 容
1	7 / 4	145,020	調査視察 旅費・宿泊費 (長崎県佐世保市・広島県東広島市) (日程、視察先等は調査視察等届出書等に記載)
2	8 / 27	82,780	調査視察 旅費・宿泊費 (北海道帯広市) (日程、視察先等は調査視察等届出書等に記載)
3	10 / 10	113,770	調査視察 旅費・宿泊費 (福岡県福岡市・福岡県北九州市) (日程、視察先等は調査視察等届出書等に記載)
4	10 / 17	63,500	調査視察 旅費・宿泊費 (静岡県静岡市) (日程、視察先等は調査視察等届出書等に記載)
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
	/		
小 計		405,070	備 考
合 計		405,070	

※案分による支出の場合は、案分率等を支出内容欄に記入してください。

平成30年6月5日

会派名 無所属
代表者名 吉田淳一様

氏名 吉田淳一



調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

- 1 旅行者 吉田淳一 議員
- 2 期間 平成30年7月4日(水)～平成30年7月6日(金)
- 3 場所 長崎県佐世保市、広島県東広島市
- 4 目的及び内容
 - ・長崎県佐世保市
アルカスSASEBO 視察
 - ・広島県東広島市
東広島芸術文化ホールくらら 視察
- 5 経費 145,020円
【内訳は、旅費額計算書（第4号様式）に記載のとおり】

第4号様式（第6条、第8条関係）

旅 費 額 計 算 書

旅 行 日 程			旅 費 計 算 の 基 礎					
行	日	時刻	区 分	基 数	単 価	金 額	備 考	
行	7/4	本八戸駅発 9:32	早見表					
	7/4	佐世保駅着 18:42						
帰	7/6	東広島駅発 11:15						
	7/6	本八戸駅着 19:37						
経路・滞在地 別紙のとおり			鉄道運賃	638.0k	9,610	9,610	本八戸→浜松町	
				48.7k	940	940	大村→佐世保	
				1,929.9k	19,850	19,850	佐世保→東広島→本八戸 (JR九州加算含む)	
			急 行 料 金	特	2	6,160	12,320	八戸⇄東京 631.9k
					1	1,230	1,230	佐世保→博多 117.0k
					1	4,610	4,610	博多→東広島 312.5k
					1	6,900	6,900	東広島→東京 862.4k
			特別車両 料 金	2	4,110	8,220	八戸⇄東京 631.9k	
				1	1,570	1,570	佐世保→博多 117.0k	
				1	7,650	7,650	東広島→東京 862.4k	
			航空運賃	1	46,390	46,390	羽田空港→長崎空港	
			バス運賃	1	240	240	長崎空港→大村	
			東京モールの	1	490	490	浜松町→羽田空港	
			宿泊料	2	12,500	25,000	7/4 佐世保市 7/5 東広島市	
小 計					145,020			
合 計 (小計×人数)					145,020	1名		

日程表 平成30年7月4日(水)～6日(金)

月 日	行 程	宿 泊
7月4日 (水)	<p>9:32 発 9:41 着/10:16 発 13:04 着/13:17 発 13:23 着/13:28 発 13:44 着 <u>本八戸</u> - JR八戸線 - <u>八戸</u> - JRはやぶさ14 - <u>東京</u> - JR山手線 - <u>浜松町</u> - 東京モレール - <u>羽田空港</u></p> <p>14:30 発 16:20 着/16:50 発 17:04 着/17:34 発 18:42 着 <u>羽田空港</u> - JAL611 - <u>長崎空港</u> - 連絡バス - <u>大村</u> - JR大村線 - <u>佐世保</u></p>	佐世保市内
7月5日 (木)	<p>9:00 ~ 11:00 <u>長崎県佐世保市 アルカスSASEBO 視察</u> 住所: 〒857-0863 長崎県佐世保市三浦町2-3 TEL:0956-42-1111</p> <p>11:42 発 13:34 着/14:00 発 16:02 着 <u>佐世保</u> - JR特急みどり14 - <u>博多</u> - JRこだま746 - <u>東広島</u></p>	東広島市内
7月6日 (金)	<p>9:00 ~ 10:30 <u>広島県東広島市 東広島芸術文化ホールくらら 視察</u> 住所: 〒739-0015 広島県東広島市西条栄町7-19 TEL:082-426-5900</p> <p>11:15 発 11:49 着/11:59 発 15:33 着/16:20 発 19:08 着/19:29 発 19:37 着 <u>東広島</u> - JRこだま736 - <u>福山</u> - JRのぞみ22 - <u>東京</u> - JRはやぶさ31 - <u>八戸</u> - JR八戸線 - <u>本八戸</u></p>	

平成30年8月21日

会派名 無所属

代表者名 吉田 淳 一 様

氏 名 吉 田 淳 一



調査視察等報告書

平成30年6月5日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告します。

- 1 旅行者 吉 田 淳 一 議員
- 2 期 間 平成30年7月4日(水)～平成30年7月6日(金)
- 3 場 所 長崎県佐世保市、広島県東広島市
- 4 概 要 別紙のとおり

視察報告書

視察日 平成 30 年 7 月 5 日 (木) 午前 9 時～11 時

視察地 長崎県 佐世保市

視察目的 アルカス S A S E B O 視察

視察議員 坂本美洋 大館恒夫 工藤悠平 森園秀一 藤川優里 伊藤圓子

吉田淳一 高橋一馬 日當正男 岡田英

1、視察目的

八戸市においては、平成9年度から県立八戸芸術パークの整備を最重点要望事項として、青森県に対して要望しているところである。しかしながら、県の示す処理方針では「新たな行財政改革大綱を踏まえると、長期的な視点で捉えざるを得ないものと考えている」とされ消極的姿勢である。当市においては、新美術館の建設も決まり、新たな文化芸術施設に対する気運がますます高まってきているところである。それを受け、改めて県に対しては、ホール等を中心とした県立八戸芸術パークの整備に向けた検討を強く要望するものである。今回のアルカスSASEBOを視察することにより、運営方法、市民生活や経済、観光に対してもたらす波及効果を学び、文化施設整備の重要性、必要性を認識し、さらに県へ整備検討の要望をしていくものである。

2、視察内容

*施設概要について

敷地面積 10,453 m²

階数 地上6階・地下1階

建築延面積 22,598 m²

建築工事費 152億円 長崎県 129億円 佐世保市 23億円

①大ホール 400インチスクリーンを備える。能舞台や歌舞伎にも対応。日本舞踊、各種コンサートに対応した多目的ホールとなっている。詳細は別紙説明資料に記載。

②中ホール 一切の幕類がない。音楽専用ホールとなっている。詳細は別紙説明資料に記載。

③イベントホール 主に地元のコンサートやお芝居に使われている。詳細は別紙説明資料に記載。

④大中小会議室等 全て3階に集約している。大会議室は3分割仕切り可能、中会議室は2分割仕切り可能。特別会議室、応接室、和室、茶室もある。詳細は別紙説明資料に記載。

⑤リハーサル室 地下1階 ピアノを収納してある。詳細は別紙説明資料記載。

⑥練習室 大中小3種類用意。詳細は別紙説明資料記載。

⑦和室 詳細は別紙説明資料記載。

⑧茶室 詳細は別紙説明資料記載。

⑨交流スクエア 写真展示会、絵画展、ミニコンサートに利用される。利用料は無料。詳細は別紙説明資料。

その他 2階 地域交流センター内

佐世保市男女共同参画センター「スピカ」研修会場、調理室併設。

*施設の設立に至る経緯について

別紙説明資料に記載。

*運営方法について

①運営根拠条例 長崎県条例 佐世保市条例 詳細は別紙説明資料記載。

②運営主体 「指定管理者」公益財団法人佐世保地域文化事業財団（平成18年4月1日から）
3期目の2年目。詳細は別紙説明資料記載。

③財団の運営方針

・ 県北地域の文化振興と地域活性化に寄与する。詳細は別紙説明資料記載。

④当施設における財団の事業目的

・ 文化活動水準の向上等。詳細は別紙説明資料記載。

⑤運営について

・ 利用料金制度の採用

利用料収入は1億円あり、自主文化事業運営に充てている。詳細は別紙説明資料記載。

・ 企業協賛金制度の導入

平成16年度から募集している。ジャパネットから年間500万円、その他企業から、100万円あり。

・会員制度（アルカスクラブ会員）

オレンジ会員、ホワイト会員導入。会員数は約 2000 名。最盛期は 3000 名程だった。減少傾向。

・ホールスタッフボランティアの導入

自主事業のチケットもぎり、お客様の案内、ポスター掲示のお願い等、60 名が登録している。

・市民参加型事業の実施

演劇サークル、ワークショップの実施。開館 20 周年に向けてオリジナル公演を予定。

・自主企画事業の企画実施

自主企画事業

メディア、プロモーターとの共同事業

*アルカス SASEBO がもたらす波及効果について

①市民生活

・新たな市民の文化活動の拠点。文化事業発信の場。詳細は別紙説明資料記載。

②観光・経済波及

・大型コンベンションの誘致（平成 29 年度実績 全国規模 4 件、九州規模 7 件）

・コンベンションプログラムの中での観光視察や自主観光が組まれる。

・文化事業の展開による、周辺地域への効果。

・施設自体がもたらす直接効果

詳細は別紙説明資料記載。

*利用実績について

稼働日数 平成 29 年度 大ホール 76.3%

中ホール 61.8%

小ホール 67.0%

会議室 90%以上とかなり高い稼働率を保っている。

詳細は別紙の施設の利用実績に記載。

3、質問

質：指定管理料は？

答：平成 29 年度は佐世保市から 2 億 8000 万円もらっている。

質：指定管理料の県と市の内訳は？

答：全て佐世保市からもらっている。ホールの修繕費は県へ、会議室の修繕費は市へ予算要求する。130 万円以下は独自で、それ以上は市、県へ要求。

質：ホールの収入 9500 万円、駐車料 500 万円の収入はどこに入るのか？

答：指定管理者に入る。

質：建物の所有は、県と市の区分はあるか？

答：ホールは県、会議室は市の所有となる。共有部分は県が 8 割、市が 2 割となる。

質：駐車場は何台の収容か？

答：利用者 50 台、主催者 70 台、利用者用は隣接、主催者用は裏にある。

質：財団の職員はプロパーか市の職員か？

答：プロパー。市の職員は入っていない。オープンから 3 年間は市の職員が入っていた。

質：市の指定管理は公募制か？

答：非公募である。財団が運営をしている。

質：コンベンションの誘致は、市がやっているのか、財団か？

答：コンベンション協会と財団が連携してやっている。

質：コンベンション助成金について知りたい。

答：宿泊の人数により、助成金が出る。

質：50本の自主事業は、1億円で賄えているのか？

答：1億8000万円かかっている。文化庁からの1800万円の助成金、企業からの800万円の協賛金、入場料収益2700万円（チケット代）が投入されている。

質：自主事業の赤字分の補てんは？

答：積立金から取り崩している。積立金は、オープン当時の余剰金。入場者が落ち込み、入場料も落ち込んでいる。そこをどうするかが課題となっている。また、18年の歳月を経ており、修繕費もかさんでいる。

質：アルカスと同じような規模の施設はあるか？

答：今年3月に閉館し、600人規模の市民文化ホールはあるが、1000人規模の施設はない。その分、利用者がアルカスに移ってきている。

質：会員の減少の原因は？

答：高齢化が進み、ホールに足を運ぶ人が減ったため。観賞事業も多くの収容に結びついていないのも課題としてある。魅力的な自主事業を目指して、会員増につなげていきたい。

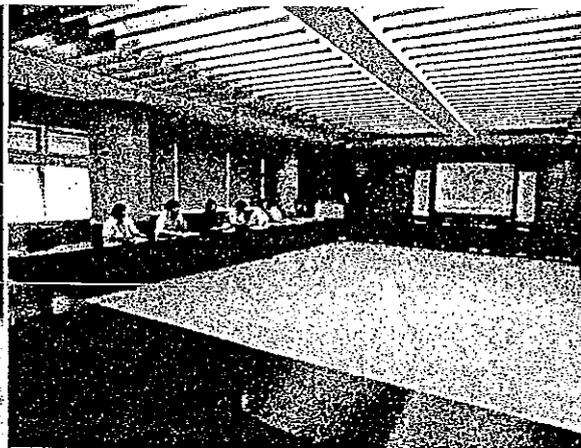
4、所感

今回の視察を終え、アルカスSASEBOが、市民にとっての文化活動の拠点であり、発信活動により、他地域への影響も多大であることを理解した。様々な文化活動を通し、市民に潤いを与えていることは、市民にとってもより充実した生活が送れるのではないかとと思う。ただ、指定管理者が自主事業を企画をし、お客様をたくさん集めることに苦勞され、努力をされていることも見逃してはならないことである。この点が、指定管理者の宿命でもあり、苦勞するところでもある。会員数の減少の原因の一因ともなっている。多くの来館者に来ていただくために、なお一層の努力を求められるであろう。また、建物の修繕費もここ近年かさんでいるということで、維持管理費の部分も将来的に視野に入れていかねばならないことも当然である。プラス面とマイナス面をうまく見極めながら、市民にとっても潤いのある生活が提供できるよう八戸市も県と協力しながら、文化施設の整備に努めていくべきではないか。

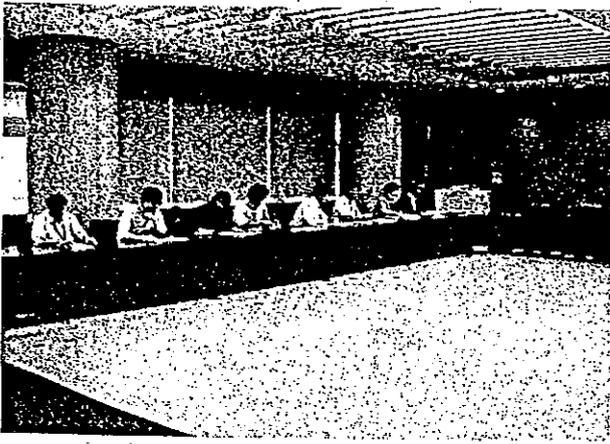
5、写真



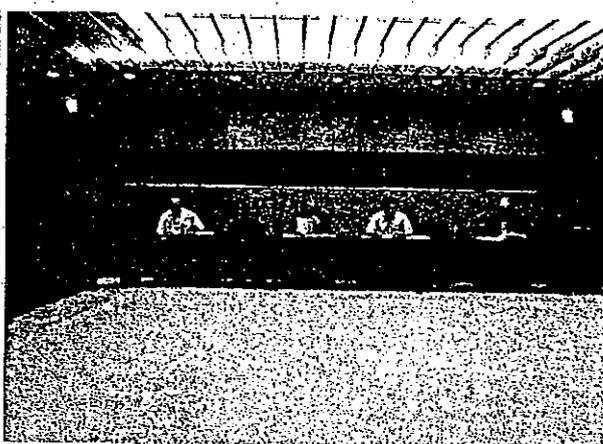
▲受入れ感謝のあいさつをする坂本会長



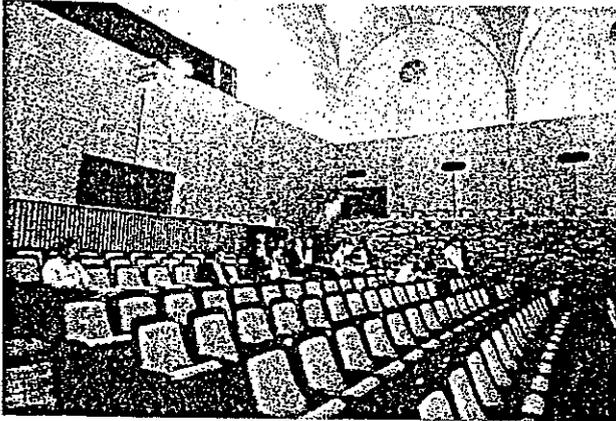
▲説明を聞く議員団



▲説明を聞く議員団



▲説明を聞く議員団



▲館内を視察する議員団



▲館内で集合写真



▲館内で集合写真

6、名刺



公益財団法人佐世保地域文化事業財団
 〒857-0863 佐世保市三浦町2-3
 TEL.(0956)42-1111(代) FAX.(0956)24-0051
 E-mail: [redacted] <http://www.arkas.or.jp>

視 察 報 告 書

視察日 平成 30 年 7 月 6 日

視察地 「東広島芸術文化ホール くらら」
広島県東広島市西条栄町 7 番 19 号

テーマ 「東広島芸術文化ホール くらら 視察」

視察議員 県立八戸芸術パーク・屋内スケート場早期建設促進八戸市議会議員連盟

岡田英・日當正男・高橋一馬

吉田淳一・工藤悠平・伊藤圓子

森園秀一・大館恒夫・坂本美洋

「東広島芸術文化ホール くらら」 視察

テーマ：東広島芸術文化ホール くらら の視察

- ・視察地：東広島芸術文化ホール くらら
(広島県東広島市西条栄町7番19号)
- ・会場：東広島芸術文化ホール くらら
- ・視察日時：平成30年7月6日
- ・視察対応：東広島市議会事務局 局次長 弓場 潤 様
東広島市教育委員会生涯学習部文化課 芸術振興係長 永井康様
同 芸術振興係 主任 山田佳子様
東広島芸術文化ホール 館長 森本浩司 様

1. 視察目的

「東広島芸術文化ホール」は平成27年11月に完成し、平成28年度より運営を開始した。

平成29年2月26日には早くも来場者30万人を達成し、順調に運営を進めている。この新しい「東広島芸術文化ホール」を視察し、今後の県立八戸芸術パーク・屋内スケート場早期建設促進八戸市議会議員連盟の活動に活かし、早期の県立八戸芸術パーク建設促進の取組に参考とするものである。

2. 概要

最初にプロジェクターを使用し、東広島市教育委員会生涯学習部文化課芸術振興係主任山田佳子様より説明があり、その後東広島芸術文化ホール館長森本浩司様の案内で館内を特に大ホール、小ホールを中心に見学した。

概要は次の通りである。

☆ホールの概要

- ・所在地：東広島市西条栄町7番19号(西条駅より徒歩4分)
- ・敷地面積：5931.57㎡
- ・建築面積：5240.79㎡
- ・建蔽率：88.35%
- ・延床面積：13338.28㎡
- ・容積率：224.8%
- ・構造：鉄筋コンクリート造(一部SRC造・S造)

- ・階数：地上6階、地下1階

☆概算事業費

- ・用地取得費：約8.2億円
- ・建設工事費：約66.7億円
- ・調査設計、工事監理費他：約3.8億円
- ・備品購入費：約2.5億円
- 合計：約81.2億円

☆財源内訳

- ・国費：約8.5億円（国交省社会資本整備交付金：約8億円、GND基金：約0.46億円）
- ・起債（合併特例債）：約65.5億円
- ・基金（文化体育施設建設基金）：約3.1億円
- ・一般財源：約4.1億円
- 合計：約81.2億円

☆整備の経緯

- 1、「新市建設計画」での位置付け（平成16年3月）
- 2、東広島市都市機能調査（平成21年3月）
- 3、基礎調査を実施（平成21年3月）
- 4、市民ホール建設用地の先行取得（平成21年5月）
- 5、基本構想（平成22年5月）基本計画（平成22年11月）
- 6、基本設計（平成23年5月～平成24年1月）公募7°味°ザル方式
- 7、各種ヒアリング（平成23年11月～平成24年1月）
- 8、実施設計（平成24年8月～平成25年8月）
- 9、建設工事（平成25年6月29日～平成27年11月30日）

視察総括

広島県央の交通結末点という恵まれた立地条件や学術・技術・研究機能の集積を活かした高度・先端産業や地場産業の振興に努めている東広島市にある

「東広島芸術文化ホール」は「ひと・まち・文化をむすび 芸術を育む 感動と共感の舞台」を基本理念として掲げ

- ① ふれる（世界の優れた文化や芸術にふれる）
- ② そだてる（地域文化や人を支えそだてる）

③ つくる (地域文化を創造し発信する)

④ つなげる (人が集い、交わり、ひろがる)

をテーマにしている。

そして、この施設は文化芸術等を基軸にしたまちづくりの拠点施設として計画され、近隣に位置する新東広島市庁舎や西条中央公園など中心市街地一帯のまちづくりの中核施設となっている。

JR西条駅から徒歩4分、また酒蔵のある西条酒造通りにも近く、中心部地区に求められる「行政機能、文化芸術機能、交通ネットワーク機能」の一躍を担っている。

建物も主要前面道路に面し、ガラス張りとし、外部と内部の一体感を醸しだしている。プラン的にも大きく「大ホール」と「小ホール」を左右にし、共有エリアとして、その間に「こもれび広場」、「ギャラリー」を配した機能的な設計である。出入り口、搬入口も機能的に共有エリアに入れるような設計である。

防災上の避難経路としても良く考えられている。

「大ホール」はプロセニウム形式で、座席数は1206席、内車椅子6席(1階席:667席、2階席:188席、3階席:189席、4階席:162席 各階にサイドバルコニー席を配置)あり、舞台は16.4m×16.4mである。またオーケストラピット音響反射板の機構がある。「小ホール」の座席数は245席、内車椅子3席、舞台は12.7m×9m、また舞台の一部を下げ、スタッキングチェアを置くことができるため、最大305席、内車椅子3席、舞台12.7m×5.4mとすることが可能である。また音響反射板の機構がある。更に階段状の客席を収納し、ステージと同じ高さの平土間とすることができ、最大200名のパーティ利用が可能である。

駐車場は施設から徒歩2分の所にある市営岡町駐車場を立体化し、228台が駐車可能である。

主な各種公演も充実しており、有名歌手、劇団、落語家その他のコンサート、公演そして地域に根差した地域イベント等を開催している。そのため来館数は当初の市見込みの年間20万人、指定管理者見込みの25万人を平成28年度実績で32.7万人、平成29年度実績で32.9万人と大きく実績をあげている。

稼働率に関しても見込みの70%を上回る、平成28年度は75%、平成29年度は76%である。

しかし、来場者は60歳代以上が半数を占め、若い世代の来場者増が課題である。

今回の「東広島芸術文化ホール」を視察し、順調に進んでいる事例を見ることができ非常に参考になった。今後の県立八戸芸術パーク・屋内スケート場早期建設促進八戸市議会議員連盟の活動に活かしていきたい。そして早期の県立

八戸芸術パークの早期建設活動に取り組んでいきたい。
今回の視察は大変有意義な視察であった。

お 名 刺

 東広島市議会事務局

局次長
弓 場 潤



〒739-8601
東広島市西条栄町 8 番 29 号
TEL:082-420-0966 FAX:082-424-9465
E-Mail:hgh200966@city.higashihiroshima.lg.jp

 東広島市教育委員会
生涯学習部 文化課

芸術振興係長
永 井 康

〒739-8601 広島県東広島市西条栄町8番29号
TEL:082-420-0977 FAX:082-422-6531
E-mail:hgh200977@city.higashihiroshima.lg.jp



東広島市 教育委員会
生涯学習部 文化課
芸術振興係
主任
山田 佳子

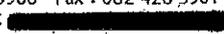
 東広島芸術文化ホール
Higashi Hiroshima Arts & Culture Hall

739-8601 東広島市西条栄町 8 番 29 号
TEL : 082-420-0977/FAX : 082-422-6531
hgh200977@city.higashihiroshima.lg.jp

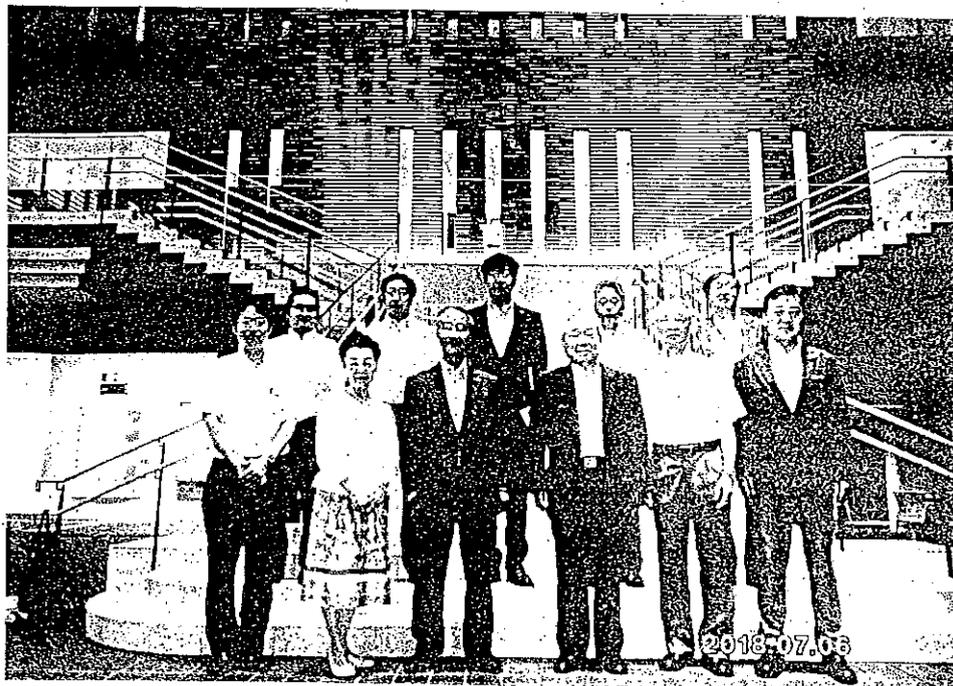
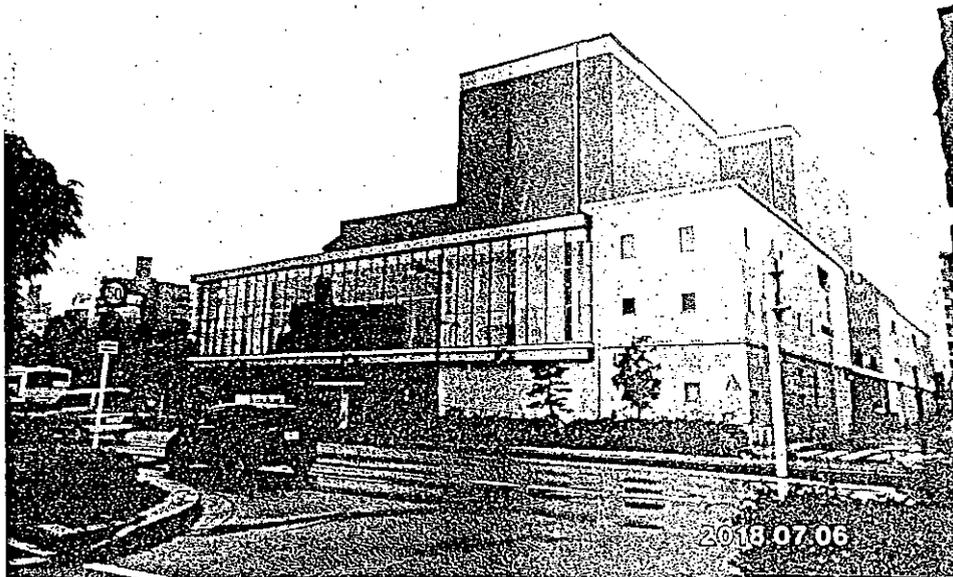


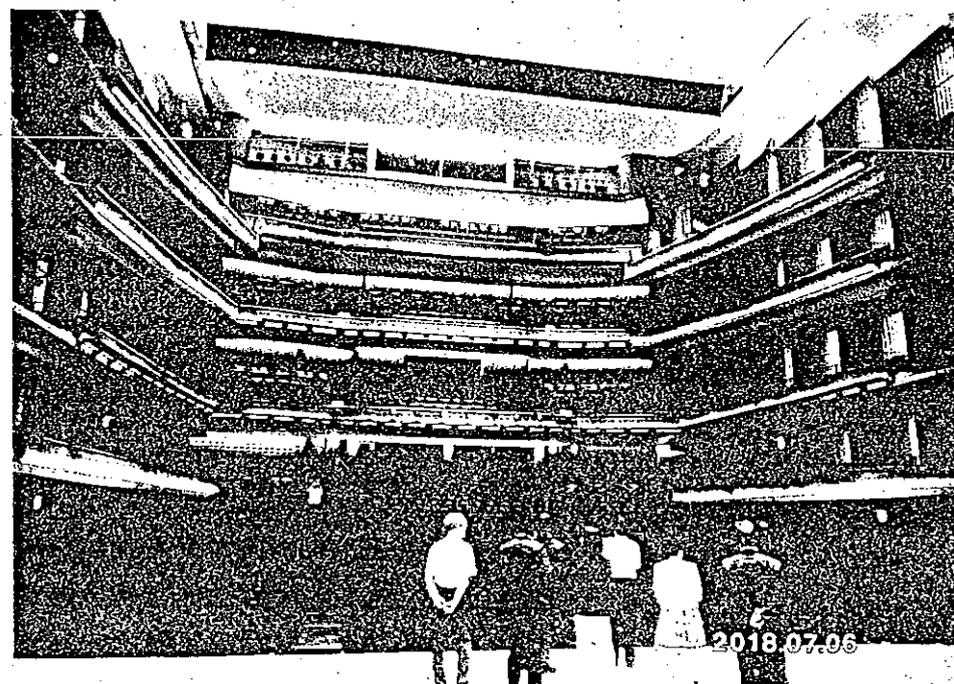
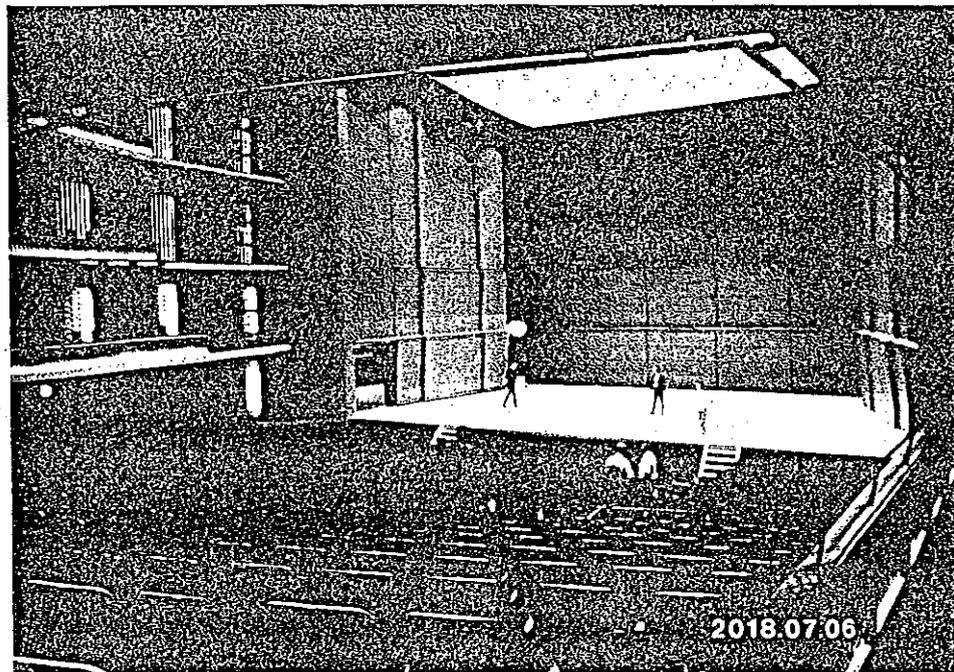
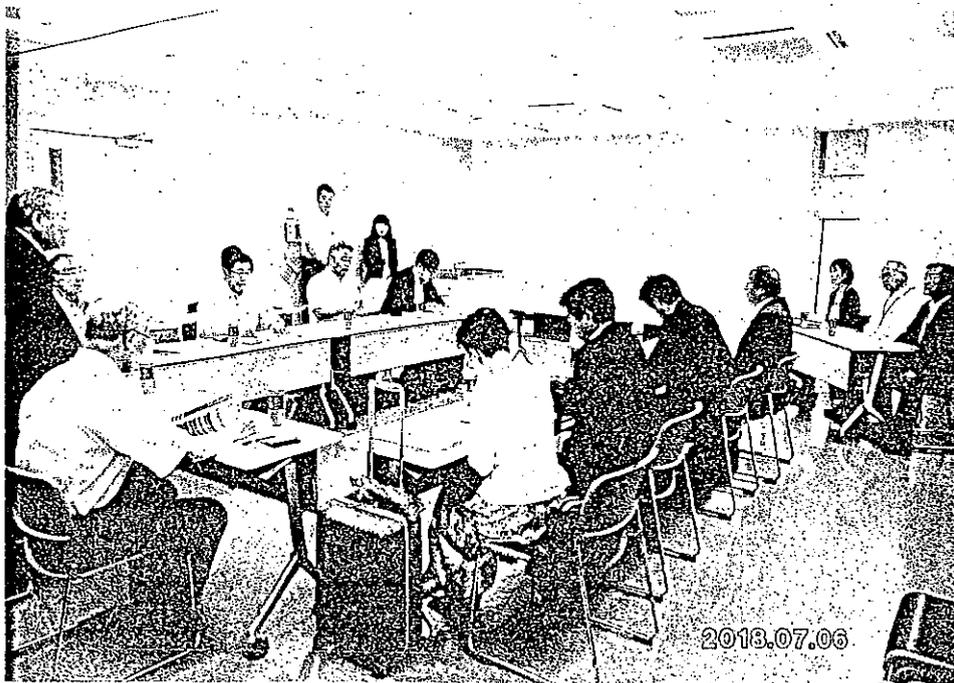
 東広島芸術文化ホール
Higashi Hiroshima Arts & Culture Hall
<http://kurara-hall.jp/>

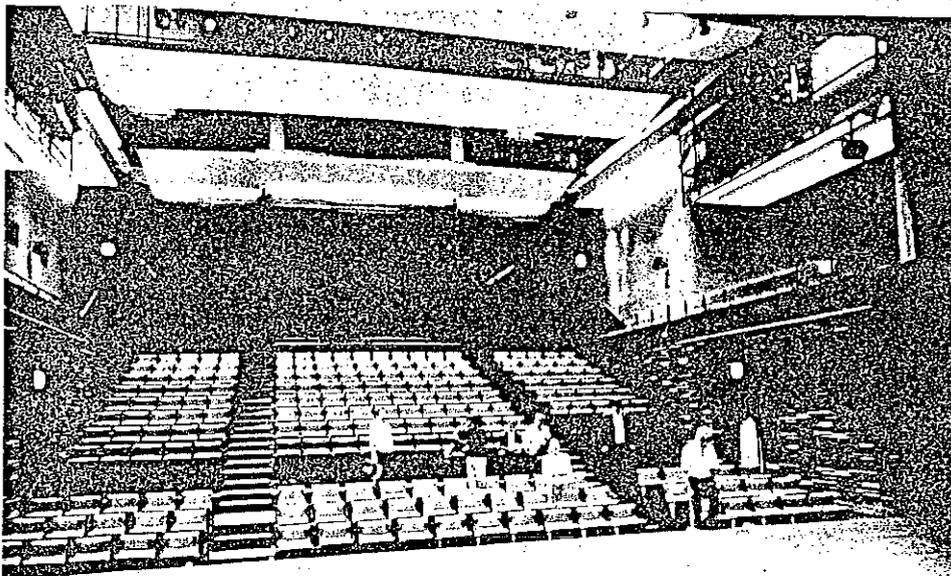
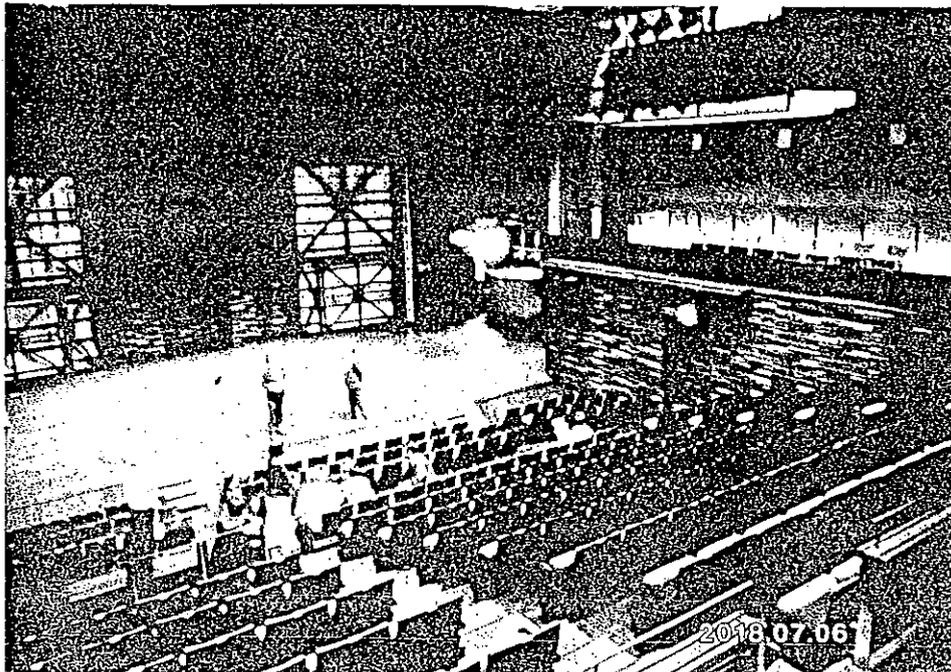
館長 DIRECTOR
森本 浩司
Koji Morimoto

〒739-0015 広島県東広島市西条栄町7番19号
Tel : 082-426-5900 Fax : 082-426-5901
E-mail : 

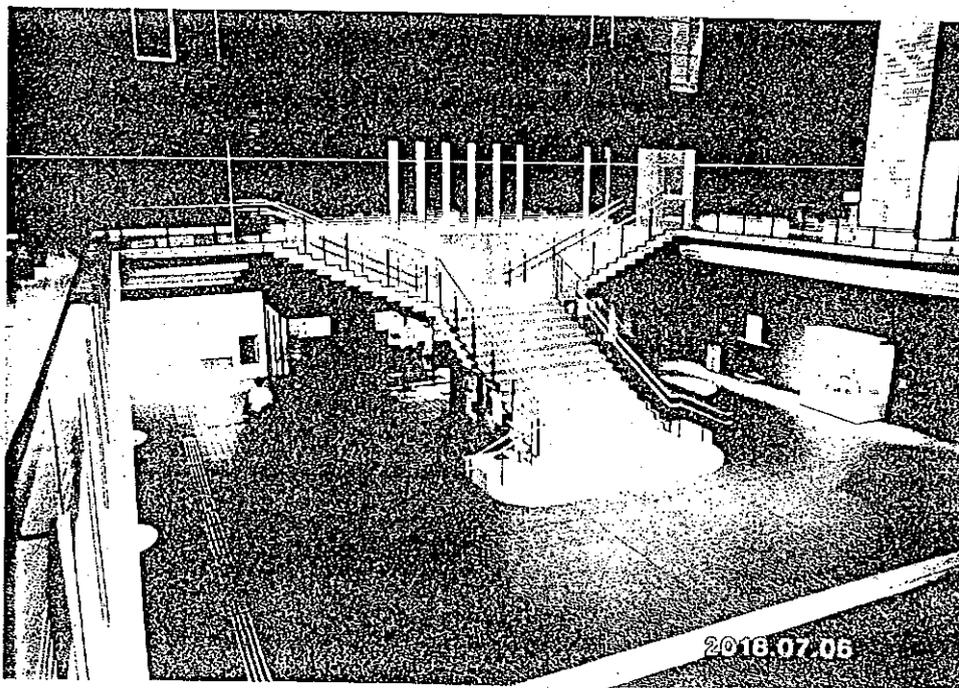
写真







2018.07.06



第3号様式（第6条、第8条関係）

平成30年7月20日

会派名 無所属

代表者名 吉田淳一様

氏名 吉田淳一



調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

- 1 旅行者 吉田淳一議員
- 2 期間 平成30年8月27日(月)～平成30年8月29日(水)
- 3 場所 北海道帯広市
- 4 目的及び内容 明治北海道十勝オーバル 視察
 - ・国際大会の開催と運営について
 - ・明治北海道十勝オーバルについて
- 5 経費 82,780円
【内訳は、旅費額計算書（第4号様式）に記載のとおり】

日程表 平成30年8月27日(月)～29日(水)

月日	行程	宿泊
8月27日 (月)	<p>12:44 発 12:53 着/13:05 発 14:37 着/15:15 発 18:11 着 <u>本八戸</u> - JR八戸線 - <u>八戸</u> - JRはやぶさ15 - <u>新函館北斗</u> - JR特急スハ^レ-北斗15 - <u>南千歳</u></p> <p>19:05 発 21:21 着 <u>南千歳</u> - JR特急スハ^レ-とかち7 - <u>帯広</u></p>	帯広市内
8月28日 (火)	<p>◆13:30 ~ 15:30 明治北海道十勝オーバル視察 住所:〒080-0856 帯広市南町南7線56番地7 Tel:0155-49-4000</p> <p>①国際大会の開催と運営について(座学) ②明治北海道十勝オーバルについて(施設見学)</p>	
8月29日 (水)	<p>8:47 発 11:07 着/11:15 発 14:09 着/14:44 発 16:15 着 <u>帯広</u> - JR特急スハ^レ-とかち4 - <u>南千歳</u> - JR特急スハ^レ-北斗10 - <u>新函館北斗</u> - JRはやぶさ30 - <u>八戸</u></p> <p>16:33 発 16:42 着 <u>八戸</u> - JR八戸線 - <u>本八戸</u></p>	

第5号様式（第6条、第8条関係）

平成30年9月21日

会派名 無所属

代表者名 吉田淳一様

氏名 吉田淳一



調査視察等報告書

平成30年7月20日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会
政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告しま
す。

- 1 旅行者 吉田淳一議員
- 2 期間 平成30年8月27日(月)～平成30年8月29日(水)
- 3 場所 北海道帯広市
- 4 概要 別紙のとおり

実施日時：平成30年8月28日（火） 13:30～15:30

会場：帯広の森運動公園内 帯広の森屋内スピードスケート場（明治北海道十勝オーバル）

説明者

帯広市教育委員会生涯学習部 スポーツ推進室長 葛西 克也 氏
主幹 河瀬 祐二 氏
副主幹 村井 和徳 氏

県立八戸芸術パーク・県立屋内スケート場早期建設促進連盟では、2度ほど視察を行っているが、県立屋内スケート場=YSアリーナがよいよ来年度秋に建設されることから、国際大会誘致の運営方法を中心に視察を行った。

国際大会の開催と運営について

【1】 概要説明（プロモーションビデオを用いて）

帯広の森屋内スケート場は、総面積 406.5ha の「帯広の森」公園内にあるスポーツ施設の一つで、アイスホッケーリンク 2 面、室内温水プール、野球場、体育館、陸上競技場など 12 施設が整備されている。

帯広の森屋内スケート場は、平成 21 年度より、明治北海道十勝オーバルというネーミングライツを採用し運営している。

明治北海道十勝オーバルは、帯広市出身の清水宏保選手が長野オリンピック（平成 10 年）で金メダルを獲得したことを契機に、平成 17 年に基本計画を策定、平成 19 年に本体工事着工、平成 21 年に完成している。

建設面積は 18,088 m²、地上 2 階建て、高さは 19.9m（内部梁下高さ 11m）、総建築面積は 31,368 m²、地上 3 階・地下 1 階、軒高 43.45m の長野エムウエーブと比較すると、格段にコンパクトな施設となっている。

当市の屋内スケート場は建設面積 11,983 m²、

明治北海道十勝オーバルの構造面での特徴は大きく 2 つあり、

① 観客席がリンクに近い。

観客に熱気が伝わり、臨場感あふれる施設に感じる。長野エムウエーブでは、リンクと観客席が離れているので、臨場感という点を大切にしているように感じる。

② 空気供給

リンクでは、外気との気温差によるもやの発生やリンク表面への霧の付着という課題、観客席には新鮮な空気を供給しなくてはならないという課題、この 2 つを解決するために空気を送風するという手法を採用している。

様々なシミュレーションを行い、湿度が低いという地域特性を生かし選択された手法。高速リンクと呼ばれているカルガリー（カナダ）やソルトレーク（アメリカ）の両リンクは、いずれも標高 1,000m を超えるため気圧の関係で空気抵抗が低い。それに比べ帯広は 81m のため、送付口をリンクの直線真上に取り付け、送風方向に合わせ空気の流れを作ることで、高速リンクへの課題の解決を目指している。

【2】 明治北海道十勝オーバルについて 施設見学、リンク運営について

リンク内を歩いて回りながら、各施設や利用について担当者の説明をいただきながらの見学。

<質問 1> 指定管理料について

「帯広の森」公園内にあるスポーツ施設全体で 9 億円。その運営費の中でやりくりしている。

<質問2>建設後の競技人口の変化について

帯広市内のスピードスケートの競技人口は、建設前は約 600 人いると言われ、徐々に減少している傾向にあったが、建設後、減少傾向に歯止めがかかり、徐々に増加し、現在では、約 1000 名にまで増えている。

施設を整備したという効果も大きいですが、清水宏保さんを中心とした“ほっとドリームプロジェクト”はじめ、五輪や世界選手権に出場しているトップアスリートや連盟を中心とした育成モデルが構築され、トップアスリートを目指す環境整備やスポーツとしての魅力を感じていただいていると思う。

<質問3>利用者について

ナショナルトレーニングセンター(NTC)を活用しているため、多くの時間は競技者優先で利用されている。一般滑走も時間を設けているが、基本的に競技者の利用時間の要望を伺い、その空いている時間を一般滑走として提供している。市民の一般滑走利用者を軽視しているわけではなく、以前の屋外スケートリンク時からそうだったが、一般開放しても市民の方々がほとんど来ないという実情の中、理解を得ながらこういった運営状況になっている。

<質問4>ネーミングライツとそれに伴う関連事業について大会時のタイムレコード賞金について

ネーミングライツは建設時、平成 21 年度より、年額 1000 万で株式会社明治様にご協力いただき、「明治北海道十勝オーバル」として命名。リンク正面の壁とリンク室内に掲載している。

スピードスケートでは、タイムレコードが施設にとって宣伝となり財産となる。そのような背景から、大会記録や世界記録を出した方には、タイムレコード賞金制を設け、賞金を設定している。

また、前記してある“ほっとドリームプロジェクト”には別途ご協賛いただき、ソフト面でも盛り上げていただいている。

【3】 国際大会の開催と運営について

明治北海道十勝オーバル開場後の大会運営実績

アジアスピードスケート距離別選手権大会 (2010 年)

世界スプリントスピードスケート選手権大会 (2010 年)

全日本ジュニアスピードスケート選手権大会 (2010 年、2012 年)

ジャパンカップスピードスケート競技会 (2010 年、2011 年、2012 年、2013 年、2014 年)

全日本スピードスケート選手権大会 (2010 年、2014 年)

ワールドカップスピードスケート競技会 (2010 年)

全日本スプリントスピードスケート選手権大会 (2011 年)

世界ジュニアスピードスケート選手権大会 (2012 年)

ジュニアワールドカップファイナル (2012 年)

2017 年アジア冬季競技大会スピードスケート競技 (2017 年)

数々の国際大会を運営してきた中で、当市が竣工後 2021 年に控えている「世界ジュニアスピードスケート選手権大会」の運営について詳しく伺った。

<質問1>開催時間帯について

海外での TV 放映などがなかったのも、日本スケート連盟に間に入ってもらい、日本側が運営しやすい時間帯を提案し、決定することができた。それに伴い、公式練習においても大会時間に近い時間を提供し問題なく運営することができた。

<質問2>ホテル需要

国内外から選手 111 名、役員 60 名が参加。

ホテル日航ノースランド、JR イン、で賄うことができた。ホテルに関しては、4 つ星以上

であったり、広さの規定があるが、細かく事前チェックされたり、厳しく注意されることはなかった。

しかしながら、選手がリンク以外でもコンディショニングを整えるために、ストレッチの部屋やトレーニングバイクを置かせて欲しいという要望には臨機応変に対応した。

各国とのやり取りは、近畿日本ツーリストが入り、行ってくれた。

通訳に関しては、ボランティアではなく有償でスタッフを用意した。

【所感】

当市において、大会運営においては、ホテル数やランク、部屋の広さの問題を国際スケート連盟 (ISU) や日本スケート連盟から課題として問われているが、今回視察を行い、帯広市内のホテルのランクや広さなど、必ずしも規定を全てクリアしていなくても受け入れ可能であることが分かり、とても大きな収穫であった。しかしながら、これに関しては、日本スケート連盟との情報共有や意思の疎通、パイプをしっかりと構築し ISU ともロビー活動できる体制づくりの必要性を感じた。

また、ホテルの部屋が規定に達していない場合などは、選手側からトレーニングバイク設置や軽いトレーニングができる場所、ストレッチルームができる場所の要望があった場合は、ホテルの階を選手だけにまとめ、その階の廊下や一部大きな部屋を提供するなど、柔軟な対応が必要であることがわかった。

運営に関しては、様々なハードルがある点も調査・研究することができ、それぞれクリアできる問題であり、自信となった。

通常の運営に関しては、明治北海道十勝オーバルでは、NTC を誘致し一般滑走者を最優先していない運営方法を行っていた。当市においては、立地上中心街に近いことや一般開放時の利用者が多いことから、NTC を取り入れていくのか、それを誘致するので安定した収入は見込めるものの、貸し切り時間に多くの制限が付くため、一般開放時間をどのように設定していくかなど、新たな課題が生じる。市民皆様の施設なので、バランスをとることも大切であるが、中途半端にならないよう明確な指針を掲げ運営していくことの大切さを感じた。

今回議員連盟としては 3 度目の視察となるが、年数を重ねた中での課題や数々の国際大会を経験したうえでの問題やそれに対する対応を調査・研究することができ、非常に有意義な視察となった。

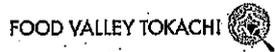


帯広市教育委員会生涯学習部
スポーツ振興室

室長
Obihiro City Board of Education
Sports Promotion Office
Director

Katsuya KASAI

葛西克也



1, south7-west5, obihiro, hokkaido 080-8670, Japan
〒080-8670 北海道帯広市西5条南7丁目1番地
Tel : 0155-65-4210 Fax : 0155-23-6142
E-mail : kasai.katsuya@city.obihiro.hokkaido.jp

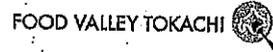


帯広市教育委員会生涯学習部
スポーツ振興室

主幹
Obihiro City Board of Education
Sports Promotion Office
Director

Yuji KAWASE

河瀬祐二



1, south7-west5, obihiro, hokkaido 080-8670, Japan
〒080-8670 北海道帯広市西5条南7丁目1番地
Tel : 0155-65-4210 Fax : 0155-23-6142
E-mail : kawase.yuji@city.obihiro.hokkaido.jp

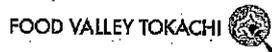


帯広市教育委員会 生涯学習部
スポーツ振興室

副主幹
Obihiro City Board of Education Lifelong Learning Department
Sports Promotion Office
Deputy Director

Kazunori MURAI

村井和徳



1, South7-West5, Obihiro, Hokkaido 080-8670, Japan
〒080-8670 北海道帯広市西5条南7丁目1番地
Tel:0155-65-4210 Fax:0155-23-6142
E-mail : sports@city.obihiro.hokkaido.jp

第3号様式（第6条、第8条関係）

平成30年9月4日

会派名 無所属
代表者名 吉田 淳一 様

氏 名 吉 田 淳 一



調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

- 1 旅行者 吉田 淳一 議員
- 2 期 間 平成30年10月10日(水)～10月12日(金)
- 3 場 所 福岡県福岡市、福岡県北九州市
- 4 目的及び内容 福岡県福岡市
 - ・福岡市中部水処理センター 視察
 福岡県北九州市
 - ・北九州市エコタウンセンター 視察
- 5 経 費 113,770円
【内訳は、旅費額計算書（第4号様式）に記載のとおり】

日程表 平成30年10月10日(水)～12日(金)

月日	行程	宿泊
10月10日 (水)	8:40 発 本八戸 - JR八戸線 - 8:50 着/9:05 発 八戸 - JRはやぶさ12 - 12:04 着/12:30 発 東京 - JRのぞみ33 - 17:33 着 博多	福岡市内泊
10月11日 (木)	<p>◆ 9:00～10:30 福岡市中部水処理センター 視察 [会場]福岡市中部水処理センター [住所]〒810-0076 福岡県福岡市中央区荒津2丁目2-1 [電話]092-721-4991</p> <p>12:03発 博多 - JR鹿児島本線 - 12:59着/13:29発 折尾 - JR若松線 - 13:44着 若松</p> <p>◆ 14:15～15:45 北九州市エコタウンセンター(風力発電NSウインドパワーひびき、北九州市市民太陽光発電所含む) 視察 [会場]北九州市エコタウンセンター [住所]〒808-0002 福岡県北九州市若松区向洋町10-20 [電話]093-752-2881</p> <p>16:33発 若松 - JR若松線 - 16:48着/17:00発 折尾 - JR鹿児島本線 - 17:25着 小倉</p>	小倉市内泊
10月12日 (金)	8:06発 小倉 - JRのぞみ10 - 12:53着/13:20発 東京 - JRはやぶさ23 - 16:13着/16:33発 八戸 - JR八戸線 - 16:42着 本八戸	/

第5号様式(第6条、第8条関係)

平成30年11月21日

会派名 無所属

代表者名 吉田 淳一 様

氏 名 吉 田 淳 一



調査視察等報告書

平成30年9月4日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告します。

- 1 旅行者 吉田 淳一 議員
- 2 期 間 平成30年10月10日(水)～10月12日(金)
- 3 場 所 福岡県福岡市、福岡県北九州市
- 4 概 要 別紙のとおり

視察調査報告書

1. 視察調査地：福岡市中部水処理センター
福岡市中央区荒津2丁目2-1
1. 視察日時：平成30年10月11日 9時～10時30分
1. 視察対応：福岡市道路下水道局 下水道施設部
中部水処理センター操作第2係 井上 文人 係長

I. 視察調査目的

八戸市議会においては、平成23年11月に「エネルギー研究開発促進八戸市議会議員連盟」を超党派全議員が参画して設立され、現在に至っている。

その目的は、八戸市におけるさらなるエネルギー関連事業の進展、また新たな研究開発を促進させることにある。

そこで、今般の視察においては、福岡市の中部水処理センターでの、下水処理の過程で発生する汚泥からエネルギーを取り出し、それを活用することにより、より高度な社会還元と貢献を行っていることに着目し、その調査をすることにある。

そもそも下水道の役割とは、浸水防除にはじまり、汚水の速やかな防除による生活環境の整備・向上、更には水洗化によつての居住環境の改善等があるが、それと共に公共用水域の水質保全による海や河川の清浄化による豊かな自然環境の保全が大きな役割となっている。

そのことから、下水道は市民生活に不可欠な社会基盤施設として、各自治体においてはその整備を進めている。

その一方で、下水道からの処理水においては、単に浄化して放流するばかりではなく、貴重な水資源であると捉え、処理水や汚泥からも再生エネルギーともなる膨大な下水道資産として活用し、社会に還元することが可能であるという。

そこで、現実にそのことを実施し、更には「世界初下水で車を走らせる」というコンセプトのもとに、下水処理過程において水素(H₂)を取り出し、それによつて社会に貢献するという「福岡市水素リーダー都市プロジェクト」及び、他のエネルギー創出関連事業を調査するものである。



世界初
下水で車を走らせる

この調査によって、八戸市の下水道事業におけるエネルギー開発促進についての将来の方途に一助することを目的として視察するものである。

II. 視察調査概要

まず最初に、私達、「エネルギー研究開発促進八戸市議会議員連盟」を代表して、坂本美洋会長より、議員連盟の趣旨を説明し、視察受け入れの謝意を申し述べ、その上で前項の如くの視察目的を述べられた。

次いで、担当の井上文人係長からはパワーポイントにより、福岡市中部水処理センターでの概要及びその特色、また事業内容について講義説明がなされた。

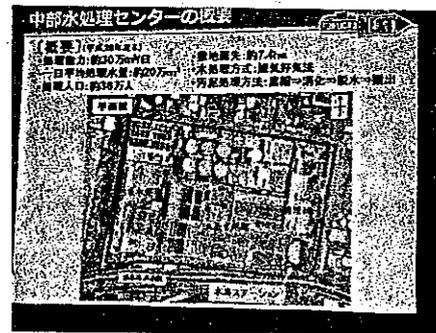


(1) 中部水処理センターの概要について

福岡市の人口は153万人、世帯数74万1千世帯で全国5位の人口規模の都市であり、下水道水洗化人口普及率は99.6%（全国平均77.6%）と高く、その処理面積は17,035ha、処理水量は1日あたり514,600㎥であるという。

そこでの下水処理に対する施設は7箇所（1箇所は県管理）であって、その1つが今回の視察先である福岡中部水処理センターである。

同センターにおいては、平成30年現在の中部地区の処理面積は2,715ha、対象処理人口は37万6千人、処理水量は1日あたり30万㎥であり、敷地面積は7.4ha、処理方法は嫌気好気活性汚泥法であるとの概要説明がなされた。



(2) 下水処理のしくみについて

福岡市においては、下水道の新たな役割としてトイレの水洗化率は99.6%と概成されており、そのことから、処理水の有効利用、資源・エネルギーの回収、下水道資産の有効活用を推進し、より高度な社会貢献を目指しているとのことである。

その具体的事例としては、下水処理を清浄化しての再生水を利用して、市内大型建築物

等のトイレに供給しての循環型都市づくりである。

この供給能力は同センターで1日あたり1万 m^3 であり、供給面積は1,020haであるという。

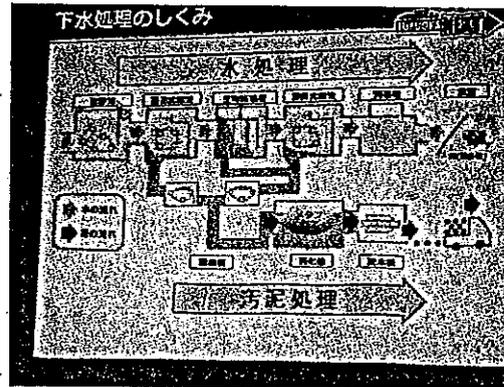
また、下水処理の過程で発生する汚泥からエネルギーともなる消化ガス（メタンが主成分）の供給による発電装置の熱源利用。これは「FIT事業（固定価格買取制）」として施設内で発電させ、その電気を電気事業者に販売する。

また、消化ガスそのものを提供し、FIT事業者はそのガスから発電の上、売電をして収益を得るというシステムである。

更には消化ガスから水素（ H_2 ）を分離させての「水素ステーション」を通しての自動車へのエネルギー供給である。

その一方で汚泥処理に対しても、資源として活用するというしくみである。

それは、汚泥焼却灰を土質安定剤・セメント原料等への有効利用、またMAP施設（リンの除去）を通しての化学肥料となる有効活用しての汚泥全量活用である。



(3) 新しい都市エネルギーの創出について

下水処理によって蓄積された汚泥を濃縮することによって発生する消化ガスは、メタンガスが主成分であることから、前述の如く発電装置の燃料として有効活用するものであり、それは「メタックス」の愛称で昭和59年に発電を開始し、現在は2代目で「メタックス'09」であるという。

それは同センター内の動力の2割を賄い、更には排気ガスの熱を回収し、消化槽の加温にも再利用している。

さらには「FIT事業」として、電気エネルギーを発生、供給するものであり、1年間で約710万kwを発電（年間1,570世帯）。約3,900tの CO_2 を削減することにもなるとのことであった。

次に、その消化ガスはメタン（ CH_4 ）が60%、そして二酸化炭素（ CO_2 ）が40%であることから、その成分を膜分離装置により CO_2 を除去して、高濃度メタンガスとして精製して、それに水蒸気（ H_2O ）と反応させて水素（ H_2 ）を製造発生させるというものである。



その化学式は $\text{CH}_4 + \text{H}_2\text{O} \rightarrow 3\text{H}_2 + \text{CO}$ そして更に $\text{CO} + \text{H}_2\text{O} \rightarrow \text{H}_2 + \text{CO}_2$ となり、それをもっと簡略しての化学式は $\text{CH}_4 + 2\text{H}_2\text{O} \rightarrow 4\text{H}_2 + \text{CO}_2$ である。

その CO_2 を吸着材で吸着させ、高純度水素を精製し、それを水素ステーションに供給して自動車の燃料として利活用するという世界初の試みであるというのだ。

まさに新しい都市エネルギーの創出なのである。更に特質的なことは、この CO_2 の利用であって植物は光合成の為 CO_2 を必要とすることから、この CO_2 を液化し、ポンペに詰めて農家の野菜工場（ハウス栽培）に出荷しての農業利用するというのだ。

このように下水汚泥の全量資源化、汚水の再生化なのである。

この福岡市での実施状況を、現地調査の中で私達視察団は知ることになる。

この水素社会の意義というのはクリーンエネルギーとしての CO_2 の抑制、また関連産業の振興ともなり、災害に強いまちづくりにも貢献できるというのである。

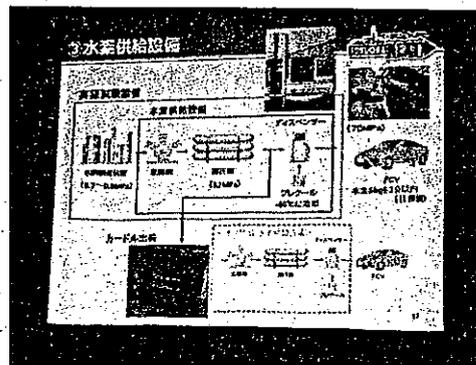
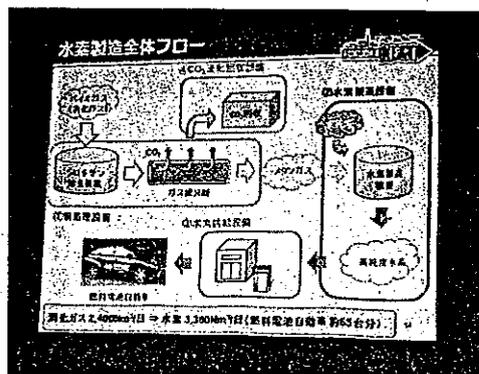
以上のことを講義説明をいただき、実際にその水素ステーション、また汚泥処理施設に案内していただいたのである。

Ⅲ. 視察調査総括

講義研修の後、早速に「福岡市水素リーダー都市プロジェクト」「水素ステーション」の現地視察に案内され、その取り組みの状況の説明を受けた。

それはまさに、下水からの消化ガス（バイオガス）を原料としての水素創出エネルギー技術の結集なのである。

それは下水を利用した世界初の水素ステーションであり、「下水で車を走らせる」との試みである。それは膜分離法を組み合わせた水素製造装置



により、供給水素の品質向上を図り、そのことよ
うでの総合的なエネルギー創出効果等を実証した施
設なのである。私達視察団に対し、現場ではその水
素車と水素バイクを設置していただいております、その
実例を調査したのであった。

このように次世代エネルギーとして注目を集める
水素を、下水消化ガスから製造する実規模レベルの
施設として、福岡市の同施設が世界初ではあるが、
これを国全体に普及させるとなると、全国2,182箇
所の下水処理場のうち、295箇所が消化槽を保有し
ているという。

その295箇所の下水処理場で発生している下水消
化ガスのうち約22%が未利用であって、この全てを
水素製造に利用したとすると、燃料電池車186万台
分の水素を供給できるポテンシャルを持っていると
の説明を受けた。

この下水処理によって創出される水素エネルギー
のメリットは、それぞれの地域の下水処理場で発生
するため、安定的な都市型バイオマスであるからに
して、地産地消のエネルギーとして地域貢献が期待
されることである。

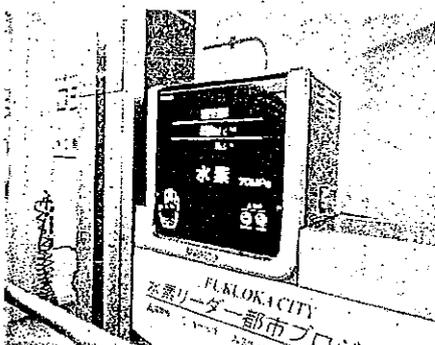
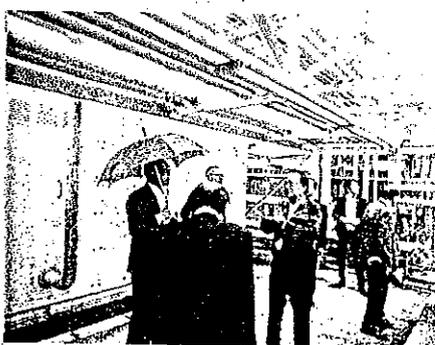
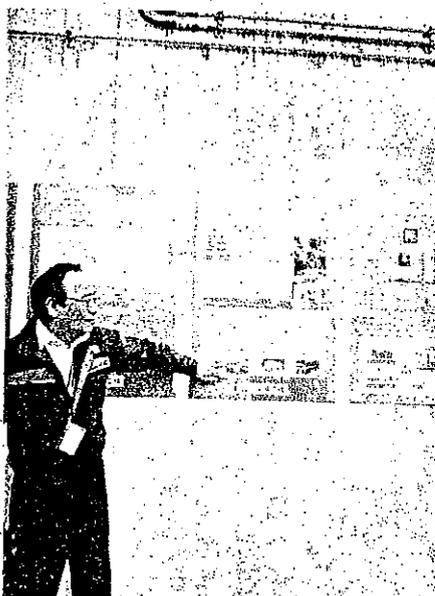
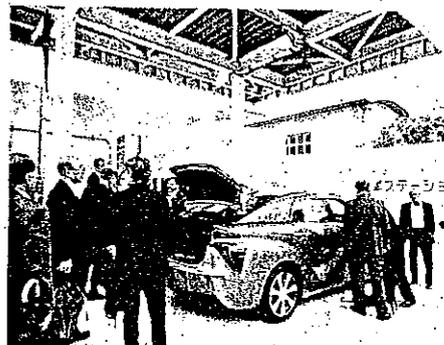
また、下水処理過程で製造する水素であるが故
に、一般的な化石燃料から抽出する水素と比較し
て、製造時に排出するCO₂の量が少ないことが挙げ
られるという。

その一方でデメリットとすれば、イニシャルコス
トの負担増となり、不純物を取り除く前処理施設が
必要なため、その設備費用がかなり増大するとい
うのである。

このことは、まさに八戸市の下水処理場での新し
いエネルギー創出や処理施設整備については大きな
課題ともなることは確かなことである。

しかしながら、国においては水素を次世代の重要
なエネルギーと位置づけ、水素社会の実現に向けて
燃料電池自動車（FCV）の普及を促進している。

FCVは「究極のエコカー」と呼ばれる。それ



は、走行時にはCO₂や大気汚染物質を排出せず水しか出さないからである。

この意味においても、八戸市にあつては、当該下水処理場において、その処理施設の技術革新に取り組み、下水は単なる汚泥廃棄するものではなく、貴重な水資源であり、汚泥もまた新しい貴重な資源であり、エネルギーを創出するものであるという認識を持って取り組むことが、より豊かな社会還元と社会貢献をすることが可能であることを学ばせられたのであつた。

以上のことから、今回の調査はこれからの八戸市での新エネルギー創出に関して示唆を受ける有意義な視察であつた。



福岡市道路下水道局

下水道施設部

中部水処理センター操作第2係

いのうえ ひとみと

係長 井上 文人

〒810-0076 福岡市中央区荒津二丁目2番1号

TEL: 092-721-4991

FAX: 092-732-7374

E-mail: inoue.fo2@city.fukuoka.lg.jp

道路河川下水道局

視察調査報告書

1. 視察調査地：北九州市エコタウンセンター

福岡県北九州市若松区向洋町10-20

1. 視察日時：平成30年10月11日 14時15分～15時45分

1. 視察対応：北九州市エコタウンセンター 三根 康子 氏

I. 視察調査目的

本視察においても、「エネルギー研究開発促進八戸市議会議員連盟」の趣旨における調査であり、福岡市中部水処理センターの視察に続いて、午後に北九州市エコタウンセンターを訪問し、学習するものである。

同センターは「北九州次世代エネルギーパーク」の一角に位置してのエネルギー供給の総合ショールームである。

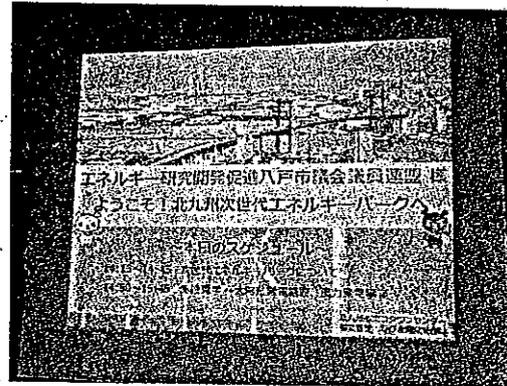
ここでは、エネルギー関係の展示施設及び新エネルギー設備を設置しており、展示コーナーでは、①エネルギーとは？ ②エネルギーをつくる ③エネルギーをめぐる課題 ④エネルギーを賢く使う ⑤北九州市の先進的な取り組み という5つのテーマでの体験型展示を常設しているという。

そこで、私達議員連盟は、同施設においてそれらを学習すると共に、北九州市における低炭素社会の実現に向けたエネルギーの取り組みを推進する次世代エネルギーパーク構想である、同地区の「響灘エコフロンティアパーク」での「風力NSウインドパワーひびき」また「北九州市市民太陽光発電所」も併せて調査するものである。

このことにより、八戸市におけるエネルギー施策に関して、今後の取り組みについての課題を研修することを目的として視察するものである。

II. 視察調査概要

まず最初に、私達「エネルギー研究開発促進八戸市議会議員連盟」を代表して坂本美洋会長より、議員連盟の趣旨を説明し、視察受入れの謝意を申し述べ、その上で前項の如くの視察目的を述べられた。



続いて、北九州市エコタウンセンターの三根康子氏からは、視察歓迎の御挨拶をいただき、パワーポイントを用いて北九州市におけるエネルギーの取り組みについての講義説明がなされたのである。

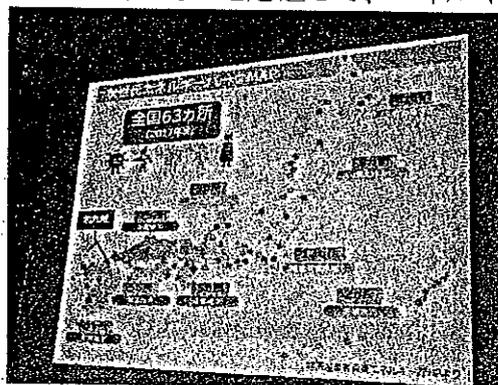


(1) 北九州市次世代エネルギーパークについて

日本国における次世代エネルギーパーク構想とは、小学生から高齢者まで国民各層が再生可能エネルギーを中心にエネルギー問題の理解と増進を深めることを通じて、エネルギー政策の推進に寄与することを目的としての計画であり、それは平成30年3月現在で全国63件の施設が認定されているという。

その中の1つが今回視察に訪れた北九州市次世代エネルギーパークである。

因みに青森県においては、「六ヶ所村次世代エネルギーパーク」であり、東北地方においては六ヶ所村を含めて11ヶ所の施設が認定されている。



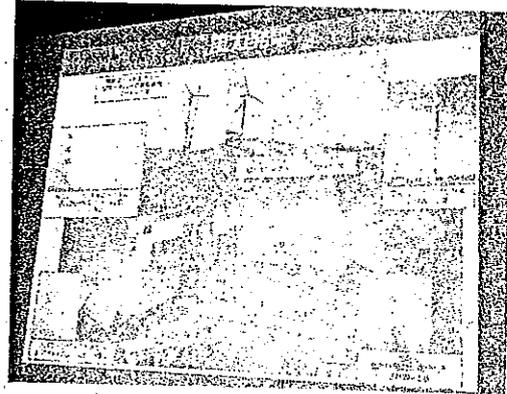
当エネルギーパークの中核地域となる響灘地区は、北九州市の北西部に位置し、臨海部の工業専用地域を中心とした約2,000ha 南北2km × 東西10km の広大な面積を有し、「響灘エコフロンティアパーク」と称せられている。

当地区においては、「低炭素（次世代エネルギーパーク）」「資源循環（エコタウン）」「自然共生（緑の回廊ビオトープ）」の3要素が連携した未来のまちを形成し、「都市と自然との共生するまち」の実現を目指し、各分野間での取り組みを複合的かつ相乗的に進めていくことで、持続可能な社会づくりを推進しているというのである。

そこで、この地域においては、現在の暮らしを支えている ①化石燃料である石炭や石油備蓄基地にLNG基地はもとより、次世代を担う ②太陽光や ③風力等の自然エネルギー ④バイオマスエネルギーの新エネルギーのほか ⑤エネルギー企業関連や技術革新の研究の様子など5つの切り口から捉えた様々なエネルギーの取り組みを集積しており、

総合的に学ぶことができるという。

そのことから、再生可能エネルギー、基幹エネルギーの創出拠点の形成として太陽光発電、風力発電、バイオマス発電、LNG発電の集積に取り組み、平成30年1月に港湾区域における洋上発電事業者と北九州市が基本協定を締結したとのことである。



(2) 北九州市の風力発電構想について

そこで、北九州市のエネルギー政策の特色は、陸上ばかりではなく洋上風力発電への取り組みが挙げられる。

それを列記すると、今回現地調査するNSウインドパワーひびきは、1基1,500kwが10基で15,000kwの電力エネルギー創出で、その他北九州風力発電所が1,990kw 電源開発が2,700kw エネシードウインド4,000kw 響灘ウインドエナジーパークが6,600kwに、平成31年完成予定の自然電力㈱の5,000kwの総計で17基 35,290kwの電力創出であるという。

また、洋上風力発電については、現在電源開発による1,980kw1基であるが、平成30年～36年にかけて45基 223,000kwで、総計46基稼働の224,980kwを創出するというのである。

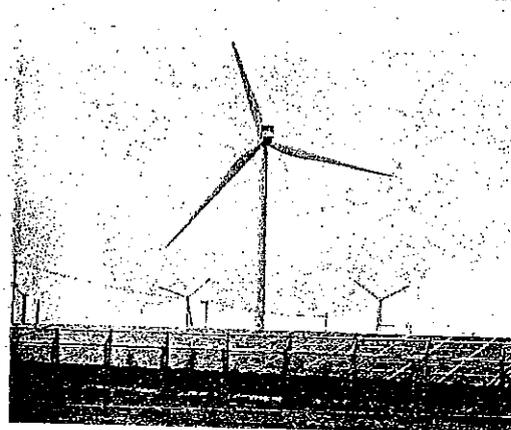
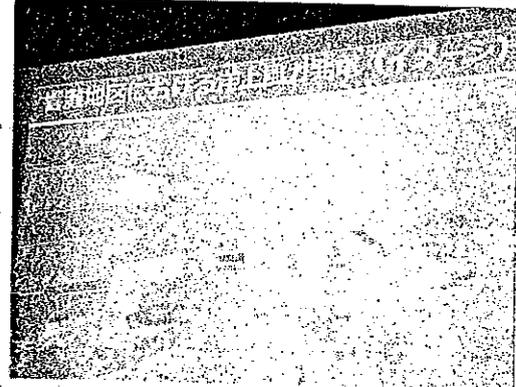
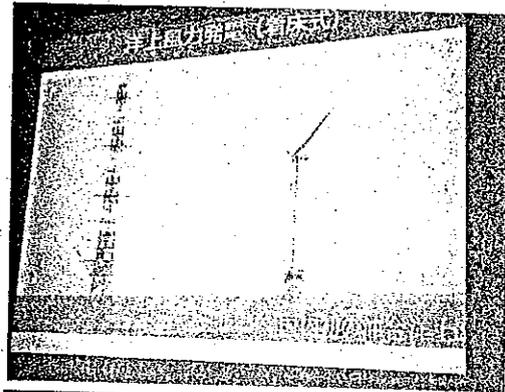
つまり風力発電においては、陸上、洋上の合計で260,270kwを発電する予定とのことであった。

これらは全て民間の発電事業者が行うとのことであり、実にスケールの大きい構想である。

(3) 北九州市の「市民太陽光発電所」について

北九州市においては、市制50周年記念事業として、平成25年8月に「市民太陽光発電所」を建設したとのことである。

この発電所の建設資金は市民から募金し、その売電収入を市民に還元するというシステムであり、全国的にも例がない、公設公営のメガソーラーなのだ。

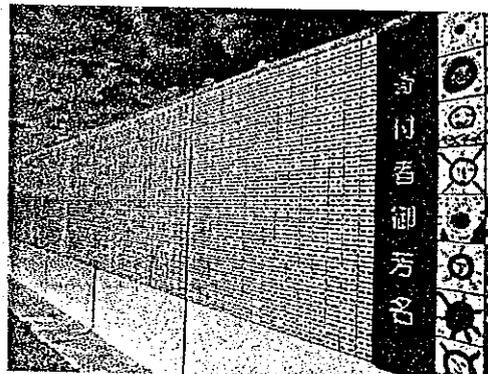
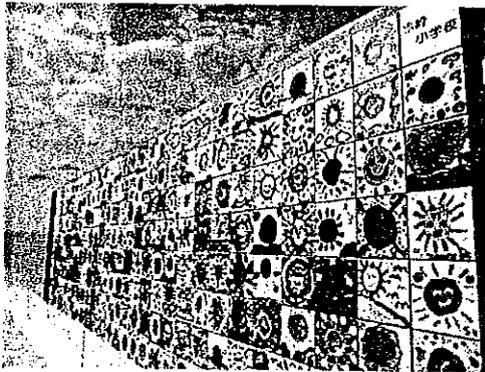
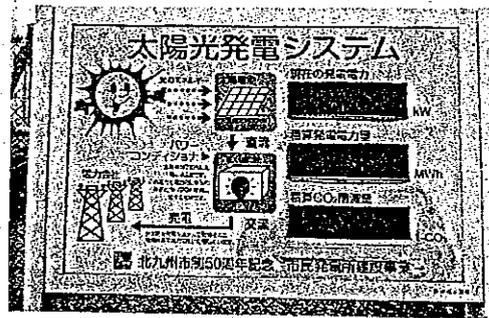
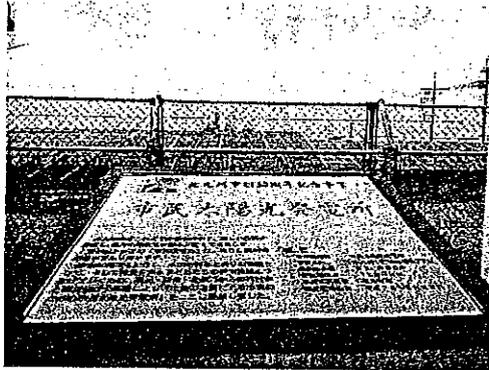


その敷地面積は2.3haであり、発電出力は1,500kw、発電量は年間135万kwで一般家庭400世帯分の消費量であるという。

それを売電して必要な費用を除いた金額を市民の緑化活動や地域活動、学習活動の為に支出しての市民還元事業であるという。

寄附金の総額は1,773万円であり、全体で6,783名からの協力であった。建設費は5億1,773万円で、5億円は市民公募債で賄い、売電金額の中から20年間で償還しての事業であって、まさに市民主体による新エネルギーの創出とエコタウン事業への参画なのだ。

私達視察団は、市民による市民のための「市民太陽光発電所」の現場を訪れ、その内容を見分して一様に感動せざるを得なかったのである。



Ⅲ. 視察調査総括

平成18年5月に策定された国の「新・国家エネルギー戦略」では、次世代エネルギーパークの整備として、国民が新エネルギーや省エネルギーなど新たなエネルギーの生産、利用に目で見えて触れて理解できるよう、「次世代エネルギーパーク」という形でエネルギーの地域拠点を整備するとした。

そこには地球環境と調和した将来のエネルギーのあり方について国民の理解と増進を図るため、太陽光や風力発電の自然エネルギー等の次世代エネルギー設備及び体験施設等の事業整備であって、北九州市では平成19年に認定されている。

今回はその取り組み推進を学習し、八戸市においてのその次世代エネルギーの活用を如何に検討していくべきかを思慮するためのものである。

北九州市においては、東日本大震災後に生じた電力需給の逼迫を踏まえて、地域エネルギーのあり方を検討し、平成27年度以降、洋上風力発電施設、高効率火力発電所等の立地促進、また地域エネルギー会社の設立の2つを柱として取り組んでいるという。

それは、太陽光発電、風力発電であり、バイオマス発電、LNG発電による高効率発電の集積であった。

平成30年5月現在での既設発電能力は統計で151,397kwであり、市内電力使用規模の約10%であるとのことで、これをこの響灘地区での風力発電では陸上風力で、前項で示した35,290kwと洋上風力の224,980kwの発電量とし、バイオマス発電においては349,000kwを予定とし、太陽光発電で合計119,127kw、そしてLNG発電において168万kwを稼働させて、総計で約240万kwの発電量とする計画であるという。

これは北九州市内使用規模の約160%であるというのだ。

実に将来を見据えた壮大な計画である。

そしてまた、最も私達に関心を示したものは、市民による「市民太陽光発電所」の建設であった。かつて北九州市は高度成長時代には「公害の街」として知られていたが、市民と企業、そして行政が力を結集して青い空と海をとりもどし、今では日本の循環型社会づくりの牽引役を果たしているという。

そのことから、多くの市民から「環境未来都市北九州のシンボルとなるような太陽光発電所を建設してほしい」との提案から計画がスタートし、平成25年の北九州市市制50周年の記念事業の一つとして完成したとのことである。

このような市民の意識と行政の意識が合致しての市民還元型の事業は、これこそ壮大な事業達成である。

いみじくも平成31年は、八戸市においては市制施行90周年の年である。このことから八戸市ではいろいろな記念事業を開催展開するが、このような市民還元型事業あるいは啓発事業としても、また地域産業型、エコ推進事業としても大いに参考となるものであった。

この意味において、今回の北九州市でのエコタウンセンターの視察調査は、大変有意義な視察であり、将来の八戸市の新エネルギー政策の推進に関して学ぶべきことや、示唆を受けることが、参考とすべきことが多大であったことを上げて総括とする。



北九州市エコタウンセンター

三根 康子

Yasuko Mine

一般社団法人北九州エコタウンネットワーク
〒803-0002 北九州市若松区向洋町 10 番地 20
TEL.093-752-2881 FAX.093-752-2882
E-mail: [REDACTED]

第3号様式（第6条、第8条関係）

平成30年9月4日

会派名 無所属
代表者名 吉田 淳 一 様

氏 名 吉 田 淳 一



調査視察等届出書

八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により、次のとおり届出します。

- 1 旅行者 吉 田 淳 一 議員
- 2 期 間 平成30年10月17日(水)～平成30年10月18日(木)
- 3 場 所 静岡県静岡市
- 4 目的及び内容 JAMSTECによる勉強会
・ JAMSTECと全国の自治体との関わりについて
東海大学海洋科学博物館、東海大学自然史博物館 視察
・ 東海大学における海洋研究及びJAMSTECとの
関わりについて
鈴与株式会社による勉強会
・ 鈴与株式会社とJAMSTECとの関わりについて
- 5 経 費 63,500円
【内訳は、旅費額計算書（第4号様式）に記載のとおり】

第5号様式（第6条、第8条関係）

平成30年11月21日

会派名 無所属

代表者名 吉田淳一様

氏名 吉田淳一



調査視察等報告書

平成30年9月4日付けで届出した調査視察等を実施したので、八戸市議会政務活動費の取扱いに関する要領第6条第1項の規定により次のとおり報告します。

- 1 旅行者 吉田淳一議員
- 2 期間 平成30年10月17日(水)～平成30年10月18日(木)
- 3 場所 静岡県静岡市
- 4 概要 別紙のとおり

先進事例視察報告

平成30年10月17日(水)～18日(木)

JAMSTEC・鈴木株式会社による勉強会への出席、東海大学海洋科学博物館・同自然史博物館・フェルケール博物館視察



▲視察参加者(東海大学海洋科学博物館前)

国立研究開発法人海洋研究開発機構研究成果活用促進八戸市議会議員連盟

1. 視察内容

(1) JAMSTEC〔国立研究開発法人海洋研究開発機構〕による勉強会

①日時：平成30年10月17日(水) 15:30~17:00

②場所：中島屋グランドホテル(静岡県静岡市)

③講師：JAMSTEC 理事 篠崎資志 氏

④テーマ：「JAMSTECと全国の自治体との関わりについて」

⑤内容：別紙資料・写真参照

⑥所感：篠崎氏の自己紹介から始まり、JAMSTECの自治体における活動、拠点所在地の紹介の後、全国の科学館との協力の中で、八戸市の水産科学館マリエントが紹介された。その後、自治体との協力関係の現状について、横須賀市、横浜市、八戸市、静岡市の順に紹介された。

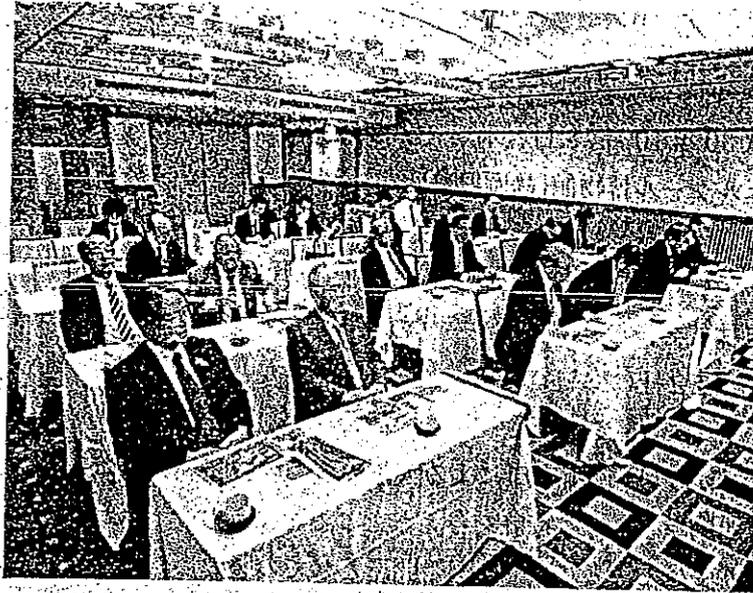
八戸市との協力として、八戸工業大学との協定締結、「アイビー倶楽部」(八戸地域を中心とした企業、大学、金融機関等で構成)への参画、マリエント「ちきゅう」たんけんクラブへの活動協力を通じた地域の海洋人材育成が挙げられていた。

次に、「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」で、2013年から2018年に至るまで、青森県が応募総数がトップであること、そして、都市別では、八戸市がトップであることが紹介された。これは、八戸市が海洋教育に力を入れている都市であるという表れであるとして、感謝とお褒めの言葉をいただき、大変光栄であった。

その後、我が国の海洋政策・海洋教育に触れ、海洋基本計画や、海洋人材の育成PT報告書の説明があった。特に、海洋に関する国民の理解の増進が課題であり、そのためにも、海洋教育の重要性が叫ばれていることがわかった。

最後に、横須賀市、横浜市、清水市の市長のHPには、施政方針等として「海洋」に触れているのに対し、八戸市長のHP上の施政方針には、「海洋」についての記述がないので、是非、取り上げていただきたい、という説明があり、講演が終了した。

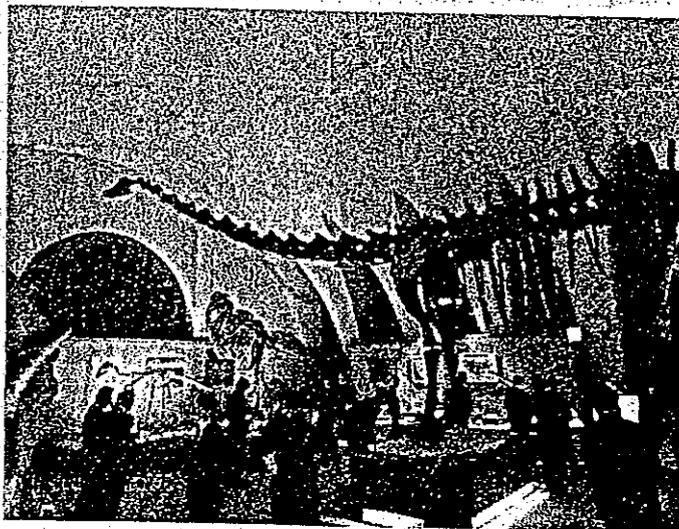
全国の自治体とJAMSTECとのつながりや、八戸市の海洋教育の進展が分かるとともに、他の自治体との比較において、市長の施政方針の件などの課題も分かった。



▲JAMSTECによる勉強会の参加者

(2) 東海大学海洋科学博物館・自然史博物館視察

- ①日時：平成30年10月18日(木)9:30~11:15
- ②場所：東海大学海洋科学博物館・自然史博物館(静岡県静岡市)
- ③講師：東海大学海洋学部副学部長・海洋フロンティア教育センター長 川崎一平教授
- ④勉強会テーマ：「東海大学における海洋研究及びJAMSTECとの関わりについて」
- ⑤所感：海洋科学博物館と自然史博物館を視察した。特に、自然史博物館には、展示していない収蔵品(恐竜の骨など)が多数あり、八戸市への貸出も可能であるというお話をいただいた。



▲自然史博物館(恐竜の骨)

(3) 鈴与株式会社による勉強会及びフェルケール博物館視察

①日時：平成30年10月18日(木) 12:00~12:30

②場所：フェルケール博物館(静岡県静岡市)

③講師：鈴与株式会社 鈴木専務取締役

④勉強会テーマ：「鈴与株式会社とJAMSTECとの関わりについて」

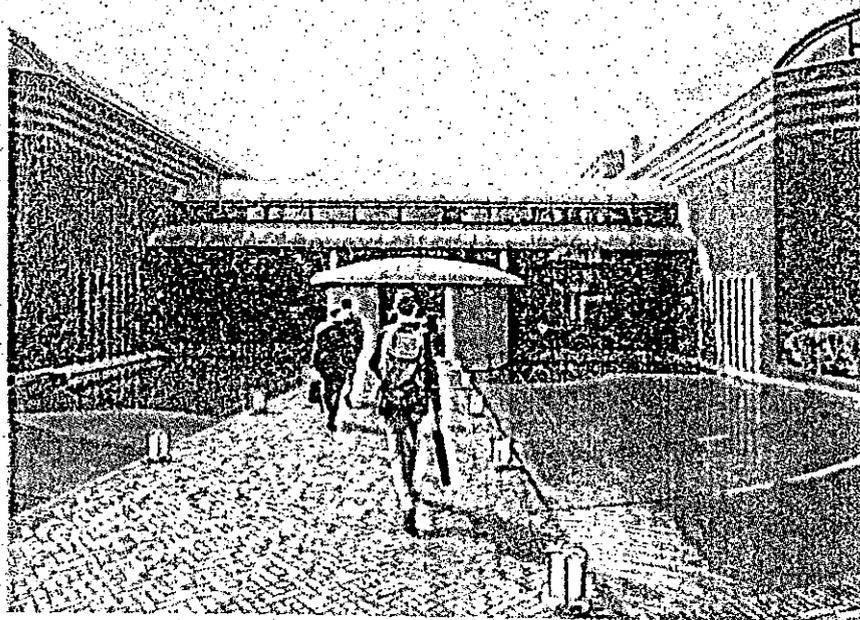
⑤所感：鈴与株式会社は、鈴与グループの中核企業であり、鈴与グループは、物流、商品流通から航空会社(フジドリームエアラインズ)など、70社以上の企業グループである。

そのきっかけは、徳川家康による大坂の夏の陣の勝利に貢献したということで、清水港の廻船問屋42軒に特許を与えたところまで遡り、1801年にその特許を鈴与の初代が譲り受けたことにより、廻船問屋としての歴史が始まり、今に至るということであった。

清水港はJAMSTEC「ちきゅう」の母港であり、「ちきゅう」を介した鈴与とJAMSTECとのつながりについての説明があった。

その後、ドイツ語で「交通」を意味する「フェルケール」博物館を視察した。

同博物館には、清水港の海運の歴史資料が数多く展示されていた。当市の水産等の歴史についても、今一度、勉強し直したいと思った。



▲フェルケール博物館正面

(4) 総括

今回の視察は、JAMSTEC、東海大学、鈴与株式会社によるそれぞれの勉強会に出席し多くのことを学び、さらに、東海大学海洋科学博物館、同自然史博物館、フェルケール博物館を視察することができ大変有意義であった。

特に、JAMSTEC 理事の篠崎資志氏の「JAMSTEC と全国の自治体との関わりについて」の講演を聞き、八戸市との関わりを学び、当議会議員連盟、八戸市にとっても大変意義深いものであった。

今後とも世界をリードする研究を推進する JAMSTEC との関係を強化し、その活動を支援して参りたいと決意を新たにした視察勉強会であった。